

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム「平」

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390300077		
法人名	社会福祉法人典人会		
事業所名	グループホーム「平」		
所在地	岩手県大船渡市大船渡町字下平24番地1号		
自己評価作成日	平成30年10月26日	評価結果市町村受理日	平成31年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0390300077-00&PrEfCd=03&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成21年度に開設した当事業所は今年で9年目となる。大船渡湾を望む高台に位置しており、海に精通して育った利用者の生活の中に溶け込んで頂けるよう関わりを続けている。平成23年度の東日本大震災において、多くの地域が被災し、震災を通じて得た教訓をふまえてつづつ地域との連携や今後のあり方について日々模索しながら事業所運営を行っている。災害時に備え当事業所では、避難場所・水・食料を準備している。日頃より地域の方々と共に支え合える関係性の構築を望んでおり、運営推進会議を通じて地域に情報を発信している。また、併設する小規模多機能居宅支援事業と協力体制をとりながら利用者のさまざまなニーズに対応できるよう取組を行い、利用者スタッフが日々穏やかに過ごすことができるよう心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大船渡港を眼下に一望できる眺望豊かな事業所は、春には桜の花見ができる季節感豊かな環境にある。近隣住民が運営推進委員となり、防災訓練への参加をはじめ、窓拭きや野菜の差し入れなど、馴染みの関係が出来ている。工夫を凝らした食事の提供、良好な排泄を促す見守り援助及び本人の意向・要求に応じた入浴支援や、利用者個々の能力を發揮しながら家庭的な環境で穏やかに生活できるよう、グループホームが追い求める細かな介護サービスが提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム「平」

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや勉強会を通じて理念を確認・共有し、継続して取り組みを行えるようにしている。理念は皆が見える所に掲示すると共に共通の目標として実践につなげるよう取組を行っている	理念はわかりやすい言葉でホールに掲示している。ミーティングや勉強会で理念の実践につながる取り組みについて確認している。利用者の能力を生かし、職員としての専門性が発揮できるよう、日々の実践に繋げた取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を計画的に行い、その中で地域との交流を日常的に行えるよう取組を行っている。小学校との繋がり継続、月に1回の生け花教室を行っている。	近隣の小学校での運動会・学習発表会を見学し、小学3年生ふれあい訪問では20名の生徒が歌や肩たたき、折り紙など利用者と触れ合う機会となっている。また、敬老会に校長先生が来所している。保育園児の踊りの訪問やボランティアで生け花教室や近隣から野菜の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の相談については即時対応するよう心掛けている。外部からの相談や見学等ある場合はその都度丁寧に対応するよう心がけ、自然と溶け込める雰囲気作りに取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催場所を事業所内とすることで、普段の職員の様子を知っていただきながら、情報交換を行っている。可能な限り多くの方に参加していただける取組を行っている。	運営推進会議は棟続きの小規模多機能ホームと合同で襖を開け、ホールに続く座敷で行われることで、運営推進委員と利用者が顔見知りとなっている。近隣住民が運営推進委員でもあり、利用者の見守りや運営への理解や協力を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、地域包括センター担当者に委員として参加していただき、事業所の状況を把握していただき、随時相談や助言をいただけるよう取組を行っている。また市主催の地域連携ケア会議に参加し、多事業所との連携が図れるよう取組を行っている。	2カ月に1回開催される地域ケア会議で、困難事例の協議を重ねるとともに、土砂災害のハザードマップについて市から聞き取り対応を検討するほか、介護保険の改正など地域包括センター担当者に問い合わせするなど、顔の見える関係が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スピーチロックを含めて職員が意識して関わっている。夜間は防犯の為、施錠を行うが日中は行わない。常に所在確認を意識し、利用者様の安全に配慮している。	身体拘束委員会を立ち上げ3ヵ月毎に会議を開催し、法人本部では年に2回研修会を実施している。行動制限につながる職員の声掛けには細心の注意を払い、月1回の勉強会で管理者が徹底を図っている。行動制限に繋がる職員からの声掛けには細心の注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	個人を尊重して、日々のケアにあたるよう心掛けています。また、事業所を広く開放することで情報収集や早期の発見に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所中の利用者が、現在日常生活自立支援事業を利用されていることにより、職員も学ぶ機会を得た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス開始前には契約書、重要事項説明書を用いて十分な説明を行い同意を得ている。サービス開始後も随時相談に応じるよう心がけている。また、改正時には約款を変更し、再度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には利用者、ご家族に参加を頂き、意見を頂ける機会を作っている。また、契約時に重要事項説明書の説明の中で苦情受付機関の紹介を行っている。ケアプランの更新時にはご家族から要望を頂き、利用者、家族の思いに気を付けるよう心がけている。	年に一回の個人面談で家族から要望や意見を聞いているが、感謝の言葉が多く特に運営に関する意見はない。毎月広報を発行し、家族に情報を提供し、来所した際に要望を確認しながら、介護サービスの向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所ミーティングにて事業所の運営について意見交換を行っている。また、月1度程度法人内事業所会議において、職員の意見や要望を事業所の意見として報告し、法人全体の運営にスタッフの意見が反映されるよう取り組んでいる。	管理者は夜勤に従事できる職員も限られている中で、有給休暇の取得ができるよう配慮している。また、事業所のミーティング以外にも、日常的に職員の意見や提案を聞く対応を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則や給与規定に沿った労務管理を心がけ、就労時間内での就業に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内各種委員会に適任者を参加させ、専門的に業務に従事できるよう努めている。事業所内での研修会の他に各種研修会にも適任者を参加させることで専門的な業務に従事できるよう取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内で運営している事業所同士での研修会に積極的に参加し、情報交換を行ったり、事業所同士での交換研修、各機関からの調査や視察などにも対応することでサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の生活歴や病歴を本人や家族、それまでの関係機関から情報収集し、アセスメントを行ったうえで職員全体でカンファレンスをおこない共有し、その方一人ひとりがその人らしい生活を行う事で安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の話を客観的に捉え、優先順位に気を配りながら事業所との特徴と本人または家族の役割を見極め支援していくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思いや不安に共感する姿勢で相談に対応出来るよう取組を行っている。入居者も家族とスタッフが共に本人を支えていけるよう説明を行い、同意を得て対応できるよう話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者一人ひとりの特性を見極め、日常の作業を一緒に行うように心がけている。また、朝礼やスタッフミーティング、運営推進会議等あらゆる場面に参加していただいたり日々の関わりのなかでその人らしさを大切にする関わりを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的受診対応を家族と共に行う事を通じて体調への気遣いを意識し、日々の連絡からも本人を支える環境作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊時の支援や手紙のやり取りをする際にお手伝いをしている。生活歴を把握することで友人や知人との関係が切れないように努めている。	通院や衣替えなどご家族の協力を得ることで、関係性の継続に取り組んでいる。地元のスーパーに週3回程度、食材の購入に利用者と共に出かけているほか、以前暮らしていた地域にドライブしている。以前からの理美容店に行っている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の生活パターンを大切にしながら、利用者同士が顔を合わせやすいように座る席を考え、会話の仲介に入っている。誰かが側にいるという安心感を持って生活せき、いたわりの声かけが行えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族と本人が安心して暮らせるように、他の事業所と連絡を取り合いながら支援している。サービスの利用が終了しても、本人と家族の状況を把握出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の希望に出来るだけ添えるように取組を行っている。困難な場合はご家族に相談し、助けもいただいている。本人が本当にしたい事を言葉で表現できる場合もあり、そこを汲み取ることで本人本位に支援出来る様に心がけている。	言葉にできない利用者には、落ち着きを取り戻すまで隣に寄り添うほか、元気で要望が強すぎる方にはスタッフと連携して役割を変えたり、遠くの家族へ連絡して対応を促したりと、利用者の状況に応じて多面的な支援を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との関わりの中からヒントを得て、家族から得る生活歴をもとに本人の馴染みの生活をひもとき、カンファレンスを行い記録している。また、ミーティングを通じて情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、心身の状態を見極めながら状態観察と把握に努めている。食事、睡眠、排泄が普段と違う状態に気付けるようケース記録を確認しながら記入し、朝夕のミーティングで申し送りをを行い共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員の気付きやこれまでの経緯を話し合いを持ちながら介護計画を作成している。必要時には見直しを検討し、利用者や家族の意向を確認すると共に計画を変更し、支援している。計画作成時時にはその人の出来ることに目を向け利用者本位になるように努めている。	連絡ノートや日誌、申し送り等を活用し利用者の状況を職員で共有し、モニタリングは全員で話し合っている。半年に一度見直し、介護度の変更、本人の状況変化、塗り絵、習字、歌謡等の趣味を加味した介護計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりの中で、心身の状態を見極めながら状態観察と把握に努めている。食事、睡眠、排泄が普段と違う状態に気付けるようケース記録を確認しながら記入し、朝夕のミーティングで申し送りをを行い共有するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と連絡調整しながら、自宅への帰宅、外泊を行っている。また、利用者のニーズから楽しみごとを計画し実行している。併設されている小規模多機能と合同で行事を行うことも事業所強みのひとつとなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々が来所され交流をはかる事で暮らしの楽しみにつながっている。また、避難訓練など有事の際には地域住民の方々に声を掛けて協力を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医院での受診を継続していただけるよう取組を行っている。身体状況を家族に連絡し、受診調整を行っている。	家族対応で医療機関を受診している。排便や血圧・食事量を記載したデータを提供している。緊急時や家族が遠方で対応が困難な場合は職員が同行している。診療結果は、ケース記録に記載し情報の共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	薬の変更や利用者の様子に変化があった場合は看護師に相談し、対応している。必要に応じて電話での連絡・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は直接入院先に向き、状態について病院看護婦よの情報交換に努めている。また、退院の時期や退院後の対応については病院関係者や家族との話し合いを重ね慎重に進めていけるよう心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人を取り巻く環境、関係機関との連絡を密に行う事で家族及び本人が安心できるようなチームケアを心掛けている。重度化が進行している現状あっては今後の方針について本人及び家族と慎重に話し合いを重ねている。	重度化や終末期については、利用者やご家族から事前に確認するとともに、マニュアルを整備し、研修を重ねながら、利用者の身体状況に応じた支援を行っている。	訪問診療が少ない現状にあって、医療ニーズの高い利用者について、身体状況に応じた老健や特養への住み替え支援を進めながら、地域医療を取り込んだ体制の構築を目指されていくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて、マニュアル・緊急連絡網を作成することで早急に対応ができる体制を確保している。また、職員が救急救命講習を受講するなど、緊急時に即急に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々にも協力を頂き、昼・夜の避難訓練を行っている。消防団員を含む地域住民の協力依頼についても運営推進委員を中心に呼びかけを行い、地域住民との意見交換も行っている。	事業所は土砂災害危険地域に当たるため、水害時のDVDを見ながらの研修を予定している。避難訓練は地域の方々の参加もあり、消防署の立ち合いで行っている。避難時の持ち物や備蓄の点検も行っている。また、大型台風の際に、本部の指示で同一法人の特別養護老人ホームに避難し一泊している。	事業所は急傾斜地に立地しており、水害や山火事等の災害では、道路も狭いため、速やかな避難が難しいと思われる、今後さらに近隣・消防署・行政等と共に検討を重ね、安心できる体制や環境の整備を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の性格や現在の状況、状態の把握に努め、各職員がその時々々の状況に応じた言葉かけや対応ができるよう取組を行っている。また、なれ合いによる不適切な言葉にも十分注意しながら入居者が使いたれた方言も使いながら対応している。	利用者個人の尊厳を実現するために、休みたい時には休ませるなど、本人を見守りながら個人の時間を大切にされた対応を心がけている。本人の様子を伺いながら小声で、或いは定時のトイレ誘導を行うなど、利用者に対する十分な目配りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の記録をもとに利用者の意向を引き出せるように会話を工夫し、その人が自己決定しやすい環境作りに努めている。指示的な言葉がけはしないように心がけ自己決定できるような言葉がけを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活に合わせ、本人のペースで生活出来るよう急がせず待つ姿勢を持って関わられるよう取り組んでいる。安全の為直ぐには希望に添えない場合でも、指示的な言葉がけにならないよう注意しながら支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前での整容、化粧をされる方には準備等を行い、時にほめる言葉がけをしている。また、希望に沿って美容室に出かけたり、困難な場合には地域にある理容室に協力していただいている。 好みの洋服等を本人に選んでいただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好調査を定期的実施し、嗜好を把握している。また、季節に合った旬の食材を利用して提供することで見た目でも短P閉める工夫をしている。一緒に調理を行い、味付け、味見をしていただきながら入居者に役割を持っていただけるよう支援を行っている。	行事食として正月、ひな祭り、敬老会、年2回のバイキング料理などを企画するほか、職員の得意分野の料理を調理して提供するとともに、利用者自らの調理への手伝い、食事の後片付けの協力など、食事に関する利用者との共同作業を行なっている。毎月の厨房会議で、美味しいおやつ作りや糖尿病食についての話し合いも持たれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量をチェックし、その人に合った食事量を提供している。疾患によって食事内容や量を調整しているため、全員で共有し行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員が口腔ケアできるよう声掛け、誘導を行っている。本人の歯ブラシとコップの使用、椅子を用意して楽な体制で出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、便意や尿意のサインに気付けるように努め、個々に合わせた排泄介助を行っている。定期誘導する場合は記録し自立に向けた支援につながるよう努めている。	排泄チェック表を確認し、下剤の調整、乳製品の摂取により整腸に配慮している。3名の利用者は定時誘導が必要となっている。落ち着かない様子が見られる時はさりげなく付き添いを行っている。また、日中は可能な範囲で布パンツを使用し排泄の自立に向けた支援を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の際には乳製品や食物繊維の多い食材や消化のよいものを取り入れていただくよう取り組みを行っている。下剤や整腸剤等も必要に応じて服薬いただくよう記録や申し送りもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の入浴対象者については利用者の状態や要望に沿って行っている。個々に合わせた入浴時間の調整は難しいが気持ちよく入浴して頂けるよう、日替わりの入浴剤を使用したり、湯温や室内の温度にも考慮している。入浴後のケアもできるだけ本人の要望を汲んでいる。	週2回から3回入浴している。歌ったり、利用者と職員がゆっくり話ができる機会となっている。入浴を望まない場合は、無理強いすることなく対応している。また、菖蒲湯など季節を取り入れた入浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度、湿度や季節に合わせた布団の枚数、着ている服の調整には気を配っている。その人に合わせて居室やソファで休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師から薬の効能や副作用について指導を受けながら学んでいる。利用者の服薬している薬の情報が分かるように一覧表にし、閲覧できるようにすることで共通の理解が出来る様に取り組んでいる。服薬時の確認は原則2人で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味活動の継続的支援を行えるよう取り組んでいる。また、家事を中心とした自立支援を行いながら役割を感じられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の食材の買い出し時には、利用者と一緒に往ったり、季節や天候に応じてドライブに出かける等支援を行っている。家族と共に外出する利用者もいる。誕生会等の行事を戸外で行い外出する機会もできるだけ設けるようにしている。	事業所周辺の散歩や、庭の桜を見ながらのお弁当や団子を携えた花見のドライブもある。誕生会にはファミリーレストランへ食事に出かけ、ホール続きのデッキでのサンマ焼き祭り、小規模多機能ホームと合同での運動会も行っている。ご家族と一緒に外食されている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物や、必要なものがある場合には、家族へ連絡を入れ了解を得て、本人と一緒に買いものに出かけたりすることもあり、利用者のストレス発散となる場合もあると考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から要望のある場合は、ほとんど家族に電話をして用件を伝えている。場合によっては代弁させていただくこともある。家族との会話により安心していただける場合もあるため今後も継続していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や出窓に季節を感じられるよう装飾等工夫し入居者が生活しながら季節を感じられるよう取り組んでいる。また、家具等の配置も居心地の良いものとなるよう工夫している。	床暖・エアコン・加湿器を利用し、適切な温度管理が行われている。ホールの広々とした窓から大船渡港が一望でき、素晴らしい景観となっている。昨年地区の文化祭に提出したパネルや利用者の作品が展示され、昔懐かしい音楽を掛け、それぞれに口ずさんだり、ゆったりとソファーや椅子に座って過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る位置や椅子、テーブルとう自然に定位置なり、馴染んで生活できている。利用者同士のトラブルには十分な配慮をおこないトラブルとならないように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際や入居後も、自宅で使い慣れた家財道具や本人の馴染みの物を持ち込めるよう家族と連絡している。布団や写真等を置くことで自宅の延長線上にあるような居心地の良い空間を提供できるよう支援している。	利用者の居室はエアコン・荷物台・洗面台が設置され、3部屋にはトイレが付いている。そのため、利用者の身体状況により居室変更することもある。筆筒や家族写真、ベッドや布団等の持ち込みにより、利用者が安心して過ごせる居室となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所の造りをシンプルな造りとし、職員の 見守りがしやすくなることで利用者の安全が 確保されている。トイレに貼紙をしたり、各居 室には名前を貼り、表札とすることで自分の 居室とわかりやすくなるよう努めている。危 険な個所は職員全員で把握できるよう取組 を行っている。		